

委員等の意見要旨と対応

資料 2

委員等	時期	意見要旨	対応案
第2 文化活動の現状と課題			
1 県民の文化活動			
斎藤委員	パブコメ前	「演劇」と「芸能」の混同を避けるべき。また、利賀における取組みについて、表現を整理すべき。	p.13:「ウ 演劇・芸能」を「ウ 演劇等」に改め、利賀芸術公園における国際的な事業について整理して記述。
畠山委員	第4回審議会	県芸術文化協会が「とやま文学賞」を設けて顕彰を行い、本県文芸の振興に継続して取り組んでいることを記述してほしい。	p.15:「現行の「文学賞など顕彰も行われている」という記述を、「とやま文学賞、北日本文学賞など顕彰も行われている」と具体的に記述
吉田泉委員	パブコメ前	文学館をめぐる議論の反映が不十分	p.16:「オ 文芸」において、文学資料を全体的に網羅し展示する仕組みや場(例えば文学館など)を望む声があり、図書館の活用などが課題である旨を記述。
2 文化施設			
市町村アンケート	第4回審議会	県に対して、コーディネートの役割を期待する意見がある。	p.21:「県立文化ホールや文化振興財団には、市町村ホールとの連携や、地域の文化活動をコーディネートする役割も求められる」旨を追加
文化活動団体アンケート	第4回審議会	日常の活動について、練習・発表場所の確保の要望が多い。	p.22:「利用の少ない施設においては、住民の文化活動の練習の場として活用される運営の工夫も求められる」旨の記述を追加
企業アンケート	第4回審議会	地域の文化行事への寄付は半数を超え、支援する理由としては、地域への社会貢献を挙げる社が多い。	p.25:「文化分野における社会的貢献を目的として支援すると回答する企業が多い」旨を追加
石川委員	第4回審議会	退職して時間のある団塊の世代(特に男性)に、障害者の美術鑑賞を手助けする等のボランティアに参加してもらえるとよい。	p.25:「団塊の世代の大量退職により、人々が生きがいや充実感を求めて文化活動や文化支援に参加できる仕組みを広げることが課題である」旨の記述を追加
3 高齢者、障害者の文化への参加			
伊藤委員	第4回審議会	高齢化社会の中で、文化と福祉との連携についてもう少し検討が必要。団塊の世代が定年退職を迎えるときに、新しい文化の担い手になっていけるような施策の検討が必要。	p.25:「高齢化社会において、文化活動への参加を人生の生きがいとする社会の仕組みや方策に一層取り組むことが課題となる」旨の記述を追加
5 世界への文化の発信			
斎藤委員	パブコメ前	利賀における取組みについて、表現を整理すべき	p.29:利賀芸術公園における事業の現状と、世界への優れた文化の発信力アップへの取組みについて記述。
6 伝統文化の掘り起こし、活用と発信			
上野委員	第4回審議会	立山信仰に関する国指定重要文化財として「立山室堂」が掲げられているが、雄山神社前立社壇本殿も同じく重要文化財である。	p.31:「立山」の項に、雄山神社前立社殿(室町時代中期の建築物で、神社本殿としては北陸で最大規模)について記述を追加
	第4回審議会	富山県には安田城(国指定史跡)など素晴らしい中世の城館が残っており、新たに項目を追加して記述すべき。	p.31:「中世城館」の項を新たに設け、安田城、富山城、高岡城等に関する記述を追加
	第4回審議会	「北前船による海の文化」を取り上げているが、定置網漁も富山発の文化である。	p.32:項目名を「北前船や定置網などによる海の文化」に改め、定置網により漁業が活性化したことや、氷見市内に網元の豪壮な建物等が現存する旨の記述を追加

委員等	時期	意見要旨	対応案
上野委員	第4回審議会	寺院建築の事例として瑞龍寺、勝興寺等が挙げられているが、前田利長公墓所も全国に誇れる規模の建築である。	p.34:瑞龍寺、前田利長公墓所、八丁道が一体となった景観等が地域の歴史の象徴となっている旨の記述を追加
	第4回審議会	伝統的工芸品の衰退が指摘されているが、井波などの職人は全国の曳山等の祭り用具を修復している。県内の職人がまとまって取り組めば、自県の曳山を自前で修繕できる県として情報発信が可能。	p.35:井波等において曳山・獅子の製作、修繕に携わる技術文化を保持している旨を追加 p.36:技術を保持する人材のネットワーク化が重要である旨を追加。また、「ものづくり・デザイン人材特区」の認定を受けて小中学校で伝統産業教育を行う高岡市の取組みについて追加。
池上委員	第4回審議会	「伝統」から「創造」に向けてどのように連続性を持って展開すべきか、という方向性について何か記述があると良い。	p.36:伝統工芸の保存継承のため、その魅力の再認識の促進や後継者育成が課題である旨を追加。高岡市が構造改革特区の認定を受けて、小中学校で「ものづくり・デザイン科」を必修としている取組みを例示
上野委員	第4回審議会	氷見に残っている網元の豪邸や網蔵、舟小屋などは、富山らしい景観である。	p.37:「農村景観」の項で、「氷見市の大敷網」に加えて「沿岸に残る網蔵、舟小屋など」を記述
	第2回審議会	歴史的な町並みや集落は素晴らしいものがある。岩瀬の町など町並みを再生することによって、ガラス造形の方、陶芸家、食文化に係わる方が入ってきて活動している。	p.37:「都市景観」の項に、岩瀬における歴史的な家屋が維持・保全され、職人や陶芸家らの活動の場となるなど活性化の動きについて記述を追加
	第4回審議会	岩瀬大町・新川町通りにおける街並み再生の取組みは、文化がまちづくりに貢献する好例である。	
7 情報通信技術等を活用した新しい文化の創造と発信			
山西委員	パブコメ前	インターネット市民塾に関する表現を修正すべき	p.39:「映像情報発信の状況」において、インターネット市民塾において文化振興と地域コミュニティ活性化に向けた多くの講座の開設されている現状と、市民塾活動の全国的な広がりや情報携帯端末を活用して地域文化等を発信する取組みの萌芽について記述
8 文化と産業の連携			
池上委員	第3回審議会	富山県は産業文化の宝庫であり、きちんと文化として位置付けたほうがよいと思う。	p.42:「伝統ある産業文化から生み出された最先端のものづくり文化」において、売薬がバイオ産業やデザイン業に、高岡銅器が機械産業やアルミ産業に発展してきたことなど本県の産業文化の特徴を記述
斎藤委員	第3回審議会	「最先端のものづくり文化」については、売薬や高岡銅器をデザイン業やアルミ産業に発展させてきたという富山の産業文化の特徴を明記すると説得力がある。	
堤谷委員	第4回審議会	地場産業の後継者を育てるためにも、小さい頃から職人の大事さを教育するべき。	
			p.42:新たに「伝統文化を支える技能・技術の継承・発展」の項を設け、井波木彫刻工芸高等職業訓練校や職藝学院、高岡工芸高校、富山大学芸術文化学部等による人材育成について記述

	委員等	時期	意見要旨	対応案
第3 基本目標と基本的方向				
	平田委員	第1回審議会	国際的な競争力。富山のブランドイメージを高めるために、芸術、文化で何か発信していくことが重要	p.47:基本目標の2つ目に「県民の誇りとなる文化面での『とやまブランド』を確立する」と記述
	池上委員	第1回審議会	産業分野を含め、創造する人と創造の成果を享受する人を出会わせて、いかに創造性を開発するかが課題	p.47:基本目標の3つ目に「賑わいづくり、産業振興、観光との連携など、社会の各分野で文化と連携して、総合的な文化振興に関する施策を展開する」と記述
	斎藤委員	第3回審議会	キャッチフレーズの「富山から世界に」は、「世界が上、富山が下」のように感じられる。「富山は世界だ」がよいのではないかな。	p.47:富山から、中央(東京)を經由せず、ダイレクトに国内外と交流を展開することを目指している。
	平田委員	第1回審議会	県の役割は、人材育成とネットワークづくり、人材派遣に絞り、国際発信力を持った作品づくりにもっと力を入れてもいいのではないかな。	p.48:県の役割として「県民が文化を鑑賞、創造、交流するための機会の確保」「質の高い文化の創造、発信が行われることの支援」「他分野との連携を図るコーディネーターとしての条件整備や環境づくり」と記述
	池上委員	第3回審議会	文化行政は一種のコーディネーターだと思う。文化財、福祉、建築など様々な領域にまたがり、また、自治体、NPO、企業など組織の壁を超えたコーディネートが求められる。隠れた文化資源を引き出し、創造的成果を作り出すとともに、コンテンツ化し配信して人を呼び込める力量を持ったコーディネーターを10年かけて育てられたら素晴らしい。	p.48:「文化の担い手と県の役割」において、観光、まちづくり、産業など他分野との連携を図るコーディネーターとして、その条件整備や環境づくりを県の役割として記述
	県民アンケート	第2回審議会	県が重点を置くべき施策として、「時代を担う子どもたちが文化に親しむ機会の拡充を図る」を挙げる割合(58.8%)が最も多い。	p.49:「文化活動への幅広い県民の参加」の中で、子どもの頃から優れた文化に触れ親しむ機会の提供について施策として記述
	県民アンケート	第2回審議会	全国的に又は国際的に誇れる文化として、歴史的な町並みや集落・建造物、民謡や曳山などの民俗芸能、国宝瑞龍寺などの寺社を挙げる割合が5割を超える一方、利賀の演劇や国際演劇祭等は県民に必ずしも知られていない。	p.49:「質の高い文化の創造と世界への発信」の中に、歴史や伝統文化、景観など富山固有の文化と並んで、世界に誇れる優れた舞台芸術の創造や特色ある文化振興事業の発信を施策として記述
第5 主な重点施策				
1 文化活動への幅広い県民の参加				
(1) 身近なところで優れた文化を鑑賞する機会の充実				
	市町村アンケート	第4回審議会	市町村美術館・博物館の企画展などに県学芸員の指導支援、所蔵品の借用促進を図ってほしい。	p.53:「施設のネットワークの活用」において、収蔵品の交流による魅力ある展示の充実について記述
	石川委員	第1回審議会	美術館がもっと町に出て行き、もっと若い人々に親んでもらえる場にすべき	p.53:「巡回展示や出前公演等による鑑賞機会の充実」において、巡回展示や学校一日美術館の推進等について記述
	市町村アンケート	第4回審議会	次代の文化の担う子どもを育成するには、公民館や学校など身近な施設で文化に触れる機会づくりが必要	

	委員等	時期	意見要旨	対応案
	県民アンケート	第2回審議会	公演や展覧会など文化の鑑賞に出かけない理由として「出かける時間が少ない」(33.0%)を挙げた人の割合が最も高い。	p.53:「巡回展示や出前公演等による鑑賞機会の充実」において、学校や福祉施設、公民館など身近なところでの優れた美術作品の巡回展示や出前公演について記述
	文化活動団体等アンケート	第4回審議会	富山の文化が県内外で評価・発信されるためには、老人施設や病院などの動きにくい人たちのための移動美術館が必要	
	堤谷委員	第2回審議会	作り手よりも見る側を育てなければ文化はなかなか伝わらない。学校の教育現場で地域行事に親子が参加するものに取り組んでいただきたい。	p.53:「巡回展示や出前公演等による鑑賞機会の充実」において、親子で楽しむ開設付きの講座の開催、子どもが芸術に触れることのできるキッズコーナーの設置等の促進について記述
	若林委員	第2回審議会	親子で一緒にやるということが非常に大事なのではないか。学校で子どもだけというのではなく、先生も、親も含めて一緒にやるということが必要。	
	石川委員	第2回審議会	「国際ポスタートリエンナーレ」は世界に誇れるポスター公募展であり、もっと県民に周知できるとよい。	p.53:「最新の情報通信技術を使った鑑賞の充実」において、「とやま学遊ネット」や映像センターの活用による文化事業の普及広報などについて記述 p.61:「世界ポスタートリエンナーレトヤマなどの国際事業の開催」において、世界へ向けた特色ある事業の展開について記述
	若林委員	第3回審議会	富山県の大事な文化が、インターネットやケーブルテレビで居ながらに見られるようになれば、町内会、文化活動、教育活動等に活用しやすくなって良い。	p.53:「最新の情報通信技術を使った鑑賞の充実」において、ケーブルテレビやインターネット等を活用した公演・展示の放送などについて記述
	県民アンケート	第2回審議会	文化の鑑賞に出かけるにあたっての情報の入手先は、性別・年代ごとに多様化しており、こうした状況に応じた多様な情報提供の方法を考える必要がある。	p.54:「最新の情報通信技術を使った鑑賞の充実」において、ポータルサイトの構築や、インターネット、CATVを活用した催事のPRについて記述
	文化活動団体等アンケート	第4回審議会	文化活動に関する情報の収集・発信について、インターネット・ホームページの活用を希望している	
(2)文化の創造の支援				
	伊藤委員	第4回審議会	県文化振興財団等が地域の文化の担い手たちを側面からサポートするプログラムの検討が必要。	p.54:「練習の場の確保」において、ホールの指定管理者による地域の文化の担い手の活動を支援する取組みの推進について追加
	市町村アンケート	第4回審議会	文化施設が今後、地域文化活動の拠点となっていくためには、文化を生み出しその輪を広げていける仕組みを作り、今以上に人々が集う場とする必要がある	
	文化活動団体等アンケート	第4回審議会	日常的な練習場所やミニホールなど練習・発表場所の確保、施設使用料の無料化や低減、閉館時間の延長など施設の使いやすさ等を要望する声が多い	p.54:「練習の場の確保」において、施設の練習専用利用のための利用時間の延長や利用料の減額について記述

委員等	時期	意見要旨	対応案
土合委員	第1回審議会	子どもたちは指導者と運命共同体であり、指導者の育成が大切	p.55:「指導者の確保と養成」において、芸術文化指導者招へい事業、芸術文化アドバイザー制度等について記述
文化活動団体等アンケート	第4回審議会	次代の文化の担い手の育成への障害要因として、指導者の招聘、派遣に要する経費など資金確保を指摘	
富山委員、吉田泉委員	第2回審議会	富山県立文学館の創設、あるいは文学館という独立したものでなくても、コーナーなり、ワンフロアでもよいのでそういう可能性がないか。	p.55:「発表の場、批評の場の確保」において、文芸資料等の収集、展示等において図書館や既存施設の活用促進について記述
伊藤委員	第2回審議会	富山県は図書館が日本でいちばん普及率が高い県なので、図書館をもっとうまく活用しなければならない。図書館というものをうまく活性化をさせる政策というものが、結果的には文学館に変わる。	
吉田泉委員	第3回審議会	県ゆかりの作家の生原稿など富山にまつわる歴史を地道に集めることは、対外的に富山ブランドを発信することと並び、我々の子孫に財産を残す意味からも重要である。	
文化活動団体等アンケート	第4回審議会	文化団体の活動向上に必要なこととして、他の団体・地域、異分野との交流を指摘	p.55:「発表の場・批評の場の確保」において、芸術家、芸術団体が相互に交流する場づくりについて記述
(3)文化を通じた交流、文化活動への参加の拡大			
伊藤委員	第2回審議会	芸術と文化というものをもう少し多角的な角度で繋いでいくような形でのNPO等、市民が参加していくような仕組みを作っていくこと。	p.56:「地域の人々の参画の促進」において、地域の人々が核になった施設の利用・活用のための委員会を設置や、地域の人々が自ら企画・運営する文化事業の促進について記述
市町村アンケート	第4回審議会	文化施設が今後、地域文化活動の拠点となっていくためには、地域住民が主体的に参加・活動する方向性を確立する必要がある	
文化活動団体等アンケート	第4回審議会	美術館・博物館や文化ホールへの要望・活性化策として、「一般県民の催事・事業への協力体制や、地域住民が主体となり一般の人が参加・協力できるような事業展開」を	p.56:「地域の人々の参画の促進」において、地域に密着した事業の支援や、地域の人々が自ら企画・運営する文化事業の促進について記述
伊藤委員	第2回審議会	インターネットの中でどのような交流を仕掛けていくかということも必要になる。	p.56:「地域の人々の参画の促進」において、インターネットなど新たなコミュニケーションツールの活用による文化交流と地域間の連携について記述 p.57:「高齢者、障害者等の文化活動の充実」において、文化芸術に関する情報提供、障害者等の主体的な文化活動の支援について記述
	第2回審議会	文化から排除せず、様々な人たちのアクセスを保障する。高齢者、障害者が文化に参加できる権利を保障していく。	
(4)次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動の充実			
舟本委員	第2回審議会	より多くの鑑賞者を作っていくことが大事。次世代を担う子どもや若者にもっと重点を置いた表現と、これからの施策について協力いただきたい。	p.57:「次世代を担う子どもたち、青少年の文化活動の充実」という項目を設けるとともに、「青少年の芸術鑑賞・体験事業の充実」などの施策を記述
池上委員	第3回審議会	情報技術が発達し、若者や子どもが「創造」という行為に極めて簡単に接することができるようになった現在、子ども扱いせず「次世代のクリエイター」と考えることが大事。	p.57:次世代を担う子どもたちの豊かな人間性と多彩な個性を育むため、子どもたちが本物の文化に触れたり、文化活動に参加したりする機会づくりについて記述

委員等	時期	意見要旨	対応案
平田委員	第1回審議会	産業構造の転換により、サービス業中心の社会に。子どものうちからどれだけ優れた芸術に触れているか、体験しているか等が国や地域の競争力を決定	p.57:「青少年の芸術鑑賞、体験事業の充実」において、青少年を対象とした美術作品の巡回展示、出前公演、体験型事業など本物の芸術鑑賞の機会拡充について記述
大谷委員	第1回審議会	小さいうちから、感性が豊かなときこそ、文化を経験させてあげるのが重要	
堤谷委員	第1回審議会	子どもたちは純粋で心が真っ白であり、それに色をつけていくのが大人の働きかけである。子どもの興味が湧くような働きかけをすべき。	
吉田会長	第3回審議会	子どもを子ども扱いせず、かなり若いときから本物にぶつかっていかせる必要があると思う。	
舟本委員	第3回審議会	子どもは、最初に出会ったものがつまらなければ芸術嫌いになってしまうという意見に賛成。幼いときから一流の芸術作品に接することが大切。	
石川委員	第2回審議会	「国際ポスタートリエンナーレ」は、学校からももっと来て見ていただきたい。小中学生、高校生、若い人に来て見ていただきたい。	p.57:「青少年の芸術鑑賞・体験事業の充実」において、美術館・博物館の通年無料化を活用した普及事業の開催促進について記述
高畑委員	第2回審議会	県立博物館、美術館等が無料になったが、なかなか利用には繋がっていない。	
高畑委員	第1回審議会	中高生は大人の作品を見ることや一般の方に活動を見てもらうことで育つ。	p.58:「青少年の創作活動への支援」において、青少年による文化活動の発表機会の拡充や、こども文化活動への支援について記述
市町村アンケート	第4回審議会	次代の文化の担う子どもを育成するには、各種文化団体や個人が行っている子どもを対象とした文化普及活動への支援が必要	
文化活動団体等アンケート	第4回審議会	団体の活動や文化振興にとって、後継者の育成、高齢化への対応、会員(若い世代)の増加など人材の育成・確保が課題	
舟本委員	第1回審議会	子どもたちの文化交流によって世界平和に繋がる。	p.58:「子どもたちの国内外との交流の充実」において、子どもたちの国際交流の機会拡充について記述
斎藤委員	第1回審議会	日本文化を評価したり、気づいたり、自慢に思ったり、そしてそれとは違う外国のものに対して尊敬を払うことに気づいていくことも必要	

委員等	時期	意見要旨	対応案
齋藤委員	第1回審議会	学校教育で、間違っただけをしてしまうと、芸術離れをしてしまう。そういうことにならないよう教育を考えていかねばならない。	p.59:「学校教育における文化活動の充実と地域の文化活動への理解の促進」において、芸術文化に関するカリキュラムの研究開発推進、教員研修の充実、学校や研修会への当該分野の講師派遣について記述
酒井委員	第1回審議会	生け花には、精神的なものも含まれており、そういったものを学校教育で教えていただきたい。	
山西委員	第2回審議会	学校で総合の時間に地域と連携した活動を行っているが、トップダウン的に方針を出さないと、なかなか学校の中では難しいのではないかな。	
山西委員	第3回審議会	博物館、美術館、科学館等文化を担う様々なミュージアムと教育が連携することで、興味関心を持たせながら科学的思考力や問題解決能力を育成できるのではないかな。	
大谷委員	第1回審議会	行政、学校、民間のネットワーク形成ができればと願っている。	p.59:「学校教育における文化活動の充実と地域の文化活動への理解の促進」において、文化団体、文化施設、大学との連携について記述
可西委員	第2回審議会	3歳から始めたバレエも、中学校へ行くと部活動に入らないといけなため続けられない。部活動は学校教育の一環であって、その環境の中で自分がやってきたものをなかなか次に積み重ねていくことができない。	
文化活動団体等アンケート	第4回審議会	次代の文化の担い手を育成する障害要因として、行政・学校の協力体制を指摘	
文化活動団体等アンケート	第4回審議会	誇るべき文化の宝物を自ら評価し、地域づくりに活かすためには、県人が県をあまりに知らなさすぎる現状を改めるため体験学習や交流を深め強めることが必要	p.59:「伝統文化への参加と体験の機会の確保」において、学校、地域における子どもが地域の伝統文化を体験する機会の確保について記述
市町村アンケート	第4回審議会	次代の文化の担う子どもを育成するには、伝統文化の担い手の一員であるという喜びと自覚を持たせることが必要	
2 質の高い文化の創造と世界への発信			
(1)優れた舞台芸術の創造と世界への発信			
齋藤委員	第1回審議会	質の高い創造者を育てるためには、優れたリーダーが必要。優れたリーダーのそばで、その人の仕事の仕方を見て、共に仕事をするのが一番勉強になる。	p.60:「国際舞台芸術人材育成事業による国際的な舞台芸術の拠点づくり」において、富山大学と連携したアートマネジメント講座の開講など利賀インターンシップ事業の推進について記述
伊藤委員	第2回審議会	アートマネジメントという形で芸術を支える人材育成をこの10年行っているが、人材を育てても地域で就職できないという問題がある。地域で働いて、そしてまた、次の後継者を作っていけるという循環ができるような仕組みを構成していく。	

委員等	時期	意見要旨	対応案
(3)富山固有の文化の発掘と県民による再認識と発信			
上野委員	第1回審議会	富山県には、祭りや住宅など素晴らしい文化があるにもかかわらず、その価値が県民に認識されていない。	p.62:「富山固有の文化の発掘と県民による再認識と発信」において、国内外に誇れる地域文化に県民が自信を持ち、県民一人ひとりによる発信の推進について記述
市町村アンケート	第4回審議会	富山の文化が県内外で評価・発信されるためには、県民が地域に対する誇りと親しみを持ち、学習し理解を深め、郷土を再評価することが必要	
文化活動団体等アンケート	第4回審議会	誇るべき文化の宝物を自ら評価し、地域づくりに活かすためには、地元保存会による伝統活動を核として、行政、地域住民、関連団体等と連携することが必要	p.63:「おわらなど貴重な伝統文化の発掘と発信」において、本県の伝統文化を象徴する遺産の継承・振興の支援について記述
上野委員	第2回審議会	おわらは全国的に名声を博して大勢の方か来られるが、こきりこ、むぎやはおわらに負けないだけの人を呼ぶ力がある。曳山については、曳山の文化をこれだけ数多く持っている地域は全国的にみても数少ないが、倉庫に入ったままのところも結構あるので、再発掘しないと全国に発信することはできない。	p.63:「おわらなど貴重な伝統文化の発掘と発信」において、とやま文化財百選事業等による地域の再発見などについて記述
市町村アンケート	第4回審議会	誇るべき文化の宝物を自ら評価し、地域づくりに活かすためには、市町村レベルでの宝物の掘り起こしと県レベルでの評価が必要	
文化活動団体等アンケート	第4回審議会	誇るべき文化の宝物を自ら評価し、地域づくりに活かすためには、身近な文化を、地元の人々が再体験、再認識することが必要	
(4)情報通信等技術を活用した文化の創造と発信			
文化活動団体等アンケート	第4回審議会	富山の文化が県内外で評価・発信されるためには、県内の文化遺産、各団体の活動等をネットワーク、インターネット等で情報発信することが必要	p.64:「バーチャルミュージアム、総合ポータルサイトによる情報の発信」において、県内にある文化の創作物や遺産などのデジタル化、データベース化について記述
池上委員	第3回審議会	利賀、立山など数多くの世界ブランドを富山ブランドとして売り込むべきである。発達した情報技術を使って世界中に発信するには、コンテンツが必要。富山が既に持っている優れた質の高い文化をどのようにコンテンツ化し、どのようにして配信するかを10年かけて考える	p.64:「バーチャルミュージアム、総合ポータルサイトによる情報の発信」において、県民の映像文化継承意識の高揚と映像ボランティアによる記録映像の集積について記述
山西委員	第3回審議会	富山県は日本一の情報通信基盤を持ちながら、それを利用した文化の流通が不十分だ。例えば、県映像センターには、富山の文化歴史の映像記録が蓄積されており、デジタルアーカイブにしたら全国に誇れるものができる。	

委員等	時期	意見要旨	対応案
山西委員	第2回審議会	一番大事なことは、文化情報ネットワークを支える人たちを作っていくということ。技術よりも、文化を残す、文化を伝えたいという意識を持ってその活動に取り組む人たちをどう作るかだと思ふ。	p.65:「バーチャルミュージアム、総合ポータルサイトによる情報の発信」において、映像に親しむ人材の育成と研修の充実などについて記述
畠山委員	第3回審議会	コンテンツを作る際には、その土地その土地が世界に発信したい物語性(例えば、ノーベル街道、ぶり街道)を中核に持つことが大事だと思ふ。	
山西委員	パブコメ前	住民参加型ユビキタスラーニングの推進について触れるべき	p.65:「新しいメディア等を活用した文化の発信」において、情報通信技術を県民自らが活用して、自然や歴史文化をいつでもどこでも学ぶことができる環境整備の促進について記述
3 文化と他分野との連携			
(1)文化振興と観光振興			
池田委員	第2回審議会	フェスティバルがある時、創造と発信という場合に、単なる宣伝ではなく、その期間を一つの核として、食や交通、宿泊などいろいろな問題のコーディネーター的役割を県にやっていただきたい。	p.66:「文化を活かした観光の振興」において、近隣の観光資源や他の文化資源との組み合わせによる新たな観光モデルコースの開発・PRなどについて記述
堤谷委員	第2回審議会	利賀演劇祭の際に、ツアーのようなものがあれば参加しやすい。	
斎藤委員	第2回審議会	県内のお祭りや町並みなどを繋いで、外部に対し宣伝することも考えられる。	
文化活動団体等アンケート	第4回審議会	富山の文化が県内外で評価・発信されるためには、他の観光事業や市町村事業とのタイアップが必要	p.66:「文化を活かした観光の振興」において、行政、観光協会等との連携による文化資源の保存と活用を連動させる持続的な仕組みの構築について記述
(2)文化を活かしたまちづくり・地域づくり			
上野委員	第3回審議会	芸術文化のコーディネートのためには、県内の他地域の文化や伝統芸能を知ること大事。曳山、街並み、獅子舞などを紹介し、地域の文化、伝統芸能を広め、コーディネートするのが県の立場ではないか。	p.67:「地域の文化資源を活かしたにぎわいづくりの促進」において、地域の文化資源を活かしたにぎわいづくりの橋渡しや、各地が連携して進める文化による地域振興を支援について記述
池上委員	第3回審議会	芸術の魅力は本来、営利でなく非営利目的のものだが、質の高いものを実現してコンテンツを作り、その魅力を多くの人に伝えられれば、文化を観光に結びつけて成功したイギリスのように、人の流れを作り出して地域を変えられる。	
池田委員	第1回審議会	人が歩いて、楽しくくつろげるような文化とか芸術といったうまいのあるまちづくりが必要	p.67:「地域の文化資源を活かしたにぎわいづくりの促進」において、まちづくりに文化を活かそうとする熱意ある県民や団体の支援について記述
文化活動団体等アンケート	第4回審議会	誇るべき文化の宝物を自ら評価し、地域づくりに活かすためには、身近な宝物を大切に作る動きやグループを地域づくりに活かすコーディネート役が必要	

委員等	時期	意見要旨	対応案
市町村アンケート	第4回審議会	富山の文化が県内外で評価・発信されるためには、他県にない異文化の発掘、地域の文化に関心を持つ住人を増やす、県外と県内との人的交流を広げ、深めることが必要	p.67:地域の文化資源を発掘や発信による交流人口、定住・半定住人口の拡大について記述
(4)文化を活かした産業の振興			
堤谷委員	第4回審議会	地場産業の後継者を育てるためにも、小さい頃から職人の大事さを教育するべき。	p.70:「最先端のものづくり文化の創造」において、ものづくり・デザイン人材育成特区の認定を契機として、子どもによる伝統産業の現場体験・実技体験等を通じて先人の技と心を引き継ぐ旨の記述を追加
池上委員	第4回審議会	「伝統」から「創造」に向けてどのように連続性を持って展開すべきか、という方向性について何か記述があると良い。	p.70:「最先端のものづくり文化の創造」において、地場産業・伝統産業のブランド確立、新事業創出を図るため、産学官が一体となった支援を推進する旨の記述を追加
第6 文化振興のための体制づくり			
齋藤委員	第2回審議会	実際に成果を見るということを考えたとき、実行する仕組みの方が大事なのではないか。どこでもやっているやり方ではなく、富山県独自のやり方が創出できれば素晴らしい。	p.72:最終章に「文化振興のための体制づくり」を設け、この計画の推進体制について記述
伊藤委員	第4回審議会	「多様な主体による連携・協働の仕組みづくり」としては、県の文化振興財団などが地域の文化の担い手を側面からサポートするプログラムの開発などが考えられる。	p.72:「多様な主体による連携・協働の仕組みづくり」において、施設がコーディネートして、学校、地域、団体と連携する事業の提案等について追加
	第2回審議会	享受する側のリーダーになっていくような目利き、批評といったような視点の育成	p.72:「多様な主体による連携・協働の仕組みづくり」において、NPOなど文化を支援する主体による取り組みを活かした施設運営について追加
	第4回審議会	非営利組織による文化と他分野をつなげる活動を応援していくシステムの検討が必要。	
	第4回審議会	「多様な意見を反映する仕組みづくり」としては、文化審議会の今後の役割が課題。また、施設運営の評価をコストでなく質で測る仕組みが課題。	p.72:「多様な意見を反映する仕組みづくり」において、文化審議会における文化事業の効果の把握や施策評価や、文化団体・文化施設からの意見聴取等による文化事業等に対する意見の集約について追加
山西委員	第3回審議会	文化、自然、観光などが種々の要素を、情報通信技術等を活用して連携することが重要。行政が扱うと生活環境部、教育委員会等に縦割りにされてしまいがちであり、もっと教育委員会と連携を取るべきである。	p.73:「庁内の連携」において、各部局の事業や取り組みに対する文化面での支援、協力について記述
舟本委員	第3回審議会	富山県では、文化行政が平成11年に教育委員会から知事部局へ移ったことで、文化活動者にとってやりやすい体制になったと感じる。	

	委員等	時期	意見要旨	対応案
	伊藤委員	第4回審議会	商工・農林・土木などの産業セクションが事業実施の際に文化との連携を配慮させる仕掛けの検討が必要。	p.73:「庁内の連携」において、全庁的な各部局の文化に関する事業の把握と、各事業の推進のための文化分野での支援協力について追加
	池上委員	第4回審議会	将来的には、産業行政と文化行政が連携するシステムについて考えていくべき	